

No	⑯	分類	3-(2)-ア	資料名	ともに生きる社会 ～「多文化共生」ってなんだろう～	学年	6年	領域	総合的な学習の時間
----	---	----	---------	-----	------------------------------	----	----	----	-----------

1 ねらい

- 言語や文化の違いなどを認め合いながら、住みよい社会をつくる「多文化共生」の考えを理解するとともに、近年は日本国籍をもっている「外国につながる人」が増えていることを知り、それらの人々の人権問題にも気づき、差別や偏見をなくしていこうとする気持ちをもつ。

2 活用上の留意点

- 「外国につながる児童」の在籍状況の把握を平素から進めておく必要がある。
- 指導にあたっては、本人や保護者の願いを十分に把握し、連携をとりながら指導する必要がある。
- 社会科の歴史学習など全教育課程において、外国人に対する偏見や差別の不当性についての認識を深め、「多文化共生」の考え方のもと、互いに交流し理解を深めていくことの大切さを理解させたい。

3 掲載資料の解説

① 兵庫県内外国人登録者数

このデータは、外国籍の人々の数であり、日本国籍の「外国につながる人」の数は含まれていない。ダブルの子どもや、日本国籍取得済みの子どものたちについても、しっかり把握していかなければ具体的な課題は見えてこない。子どもたちの背景を知ること、どの人権課題においてもとても重要なことである。(ダブルとは、「二つの文化をもっている人」という意味の言葉です。)

② 子ども多文化共生センター

すべての児童生徒が互いを尊重し合い、多様な文化的背景をもつ外国人児童生徒と豊かに共生する真の国際化に向けた教育の取組や、外国人児童生徒の自己実現の支援などをコーディネートしながら、総合的な施策の展開を図る拠点として「子ども多文化共生センター」を設置し、2003年から業務を開始した。利用時間は、平日の9:00～17:00。

こんなときには、ぜひ子ども多文化共生センターをたずねてください。

- 通訳や翻訳ボランティアを紹介してほしい。
- 民族衣装を着たい。外国には、どんな遊びの道具があるのか知りたい。
- 日本語指導教材や多文化共生関連の図書を探したい。
- 外国人児童生徒にかかわる相談がしたい。
- 「子ども多文化共生ボランティア」として活動したい。
- 県内のイベントや研修会の情報が知りたい。

(「子ども多文化共生センター通信」第39号から抜粋)

③ 日系ブラジル人マリナさん(仮名)の事例

マリナさんの在籍校では、社会科を中心に各教科や総合的な学習の時間など全教育課程において、それぞれの文化に誇りをもてるような多文化共生社会実現に向けての授業や取組を展開している。そのことにより、外国につながる児童と日本人の児童が、互いの違いを認め合い、励まし合える仲間づくりを行うことができている。

④ 中国人曲さん(仮名)の事例

中国から転入してきた曲さんは、当初ひらがなの50音順が読めて簡単なあいさつが言える程度であり、授業での戸惑いは本人にも教師にもあった。また、児童たちも曲さんを学級の一員として温かく迎える気持ちはもっていたが、言葉の壁によって互いのコミュニケーションが十分とれなかった。

しかし、曲さんは、兵庫県教育委員会から派遣された中国語の子ども多文化共生サポーターや、日本語指導教員によって徐々に言葉の壁が低くなり、さらに指導方法の工夫や、異文化理解のための学級での活動などを通して自分に自信をもてるようになった。

4 展開例

【導入】 外国につながる人たち。

<ねらい>

「多文化共生」の考えを理解するとともに、兵庫県でも様々な国の外国人が日本人とともに住んでいる現状を理解する。

<活動>

- ・兵庫県在住の外国人の国籍を調べる。
- ・その国々のことを調べてみる。



【研究課題・活動課題の例】

- ・外国のことや、興味のある国のことについて知っていることなどを発表しよう。
- ・兵庫県在住の外国人は、どこの国の人が多いでしょう。また、その国のことを調べてみよう。
- ・日本に最も近い韓国・朝鮮、中国とのつながりについて調べてみよう。



【展開1】 兵庫県では、どのような取組が行われているのでしょうか。

<ねらい>

「子ども多文化共生センター」の活動や、兵庫県内での取組について理解する。

<活動>

- ・「子ども多文化共生センター」について調べる。
- ・外国人支援のための民間の活動を知る。
- ・自分たちの町の取組を知る。



【研究課題・活動課題の例】

- ・「子ども多文化共生センター」のホームページにアクセスしてみよう。
- ・自分たちの学校や町では「多文化共生」への取組がどのように進んでいるのかを調べてみよう。



【展開2】 クラスみんなで「多文化共生」を考えよう。

<ねらい>

2つの事例から、外国人児童の思いを話し合い、つながり合うことの大切さを知る。

<活動>

- ・外国人の悩みや不安、願いなどを考えてみる。
- ・外国人に対して自分ができることを考える。



【研究課題・活動課題の例】

- ・マリナさんが自分のことを話せなかったり、曲さんが不安になったりした理由を考えてみよう。
- ・マリナさんや曲さんが明るく暮らせるようになったのはなぜでしょう。
- ・自分たちの町に住む外国人の願いや悩みを考えてみよう。
- ・自分たちの町の外国人に対してできることを考えてよう。



5 参考

- 二つの事例は、兵庫県において多文化共生教育に取り組む小学校に在籍する児童の作文をもとに構成したものである。